



名古屋大学
NAGOYA UNIVERSITY

配布先: 文部科学記者会、科学記者会、名古屋教育記者会

2026 年 10 月 2 日

報道機関 各位

心理学と AI 言語モデルで『武士道』を読み解く ～なぜ日本の名著は西洋人の心をつかんだのか?～

【本研究のポイント】

- ・新渡戸稲造の『武士道』を、心理学と自然言語処理を組み合わせた手法により解析し、同書が複数の道德次元にまたがる体系的な構造をもつことを明らかにした。
- ・『武士道』に近い道德的構造をもつ日本文化関連文献ほど、英語版の刊行数や欧米言語への翻訳数などに基づく「西洋受容指標」が高い傾向にあることを示した。
- ・『武士道』の 7 つの徳目を分析した結果、「名誉」が道德的構造上、中心的な位置を占めることを示した。

【研究概要】

名古屋大学大学院情報学研究科の高野 了太 講師、唐沢 穰 特任教授の研究グループは、新渡戸稲造の古典的著作『武士道』を心理学と自然言語処理を組み合わせた手法により解析し、同書に表現された道德的価値観が、複数の道德次元にまたがる体系的な構造をもつことを明らかにしました。また、その構造が、西洋での受容の程度と関連していることを示しました。

本研究では、テキストに表れた心理学的特徴を定量化する自然言語処理手法を用いて、『武士道』に表現されている道德的特徴を、キリスト教関連・聖書関連・日本文化関連の文献と比較しました。その結果、『武士道』は、権威への敬意や他者の擁護など、多面的な道德的特徴をもつことが明らかになりました。

さらに、日本文化関連文献を対象として、英語版の刊行数や欧米言語への翻訳数などに基づく「西洋受容指標」を作成し、『武士道』との道德的構造の類似性との関係を検討しました。その結果、『武士道』に近い道德的構造をもつ文献ほど、西洋でより広く受容されている傾向が示されました。加えて、『武士道』の 7 つの徳目である「義・勇・仁・礼・誠・名誉・忠義」を分析したところ、「名誉」が複数の道德次元をまたぐ中心的な概念として位置づけられることが明らかになりました。

本成果は、古典に残された言葉を自然言語処理で読み解くことで、文化や価値観が国境を越えて受容されるプロセスの解明につながる、新しい人文・社会科学研究の可能性を示すものです。本研究結果は、2026 年 9 月 17 日付で、米国科学アカデミー (National Academy of Sciences) がオックスフォード大学出版局から創刊した『PNAS Nexus』に掲載されました。



画像は、新渡戸稲造の肖像写真(国立国会図書館所蔵、Wikimedia Commons 掲載、パブリックドメイン)をもとに、生成 AI を用いて作成。

1. 研究背景と成果

近年、心理学や社会科学では、いわゆる WEIRD^{注1)}社会を中心に蓄積されてきた知見を、人間一般に普遍的なものとして扱うことへの批判が高まっています。その一方で、非西洋圏の歴史的な文脈の中で育まれてきた価値観が、どのような特徴をもち、どのように異文化圏の人々に理解され、受容されるのかについては、十分に明らかにされてきませんでした。

こうした問いを検討するうえで、新渡戸稲造の古典的著作『武士道』は重要な対象です。同書は、日本文化に根ざした道徳的価値観を西洋の読者に紹介することを目的として英語で書かれ、世界的に広く読まれてきました。『武士道』では、武士道を構成する徳目として、「義」「勇」「仁」「礼」「誠」「名誉」「忠義」が論じられています。しかし、これらの徳目を含む『武士道』の道徳的価値観が、心理学的にどのような道徳構造を形成しているのか、またその構造が西洋での受容とどのように関わるのかは、定量的には十分に検討されていませんでした。

本研究では、テキストに埋め込まれた心理学的特徴を定量化する自然言語処理手法である CCR^{注2)}を用いて、『武士道』に表現されている道徳的特徴を分析しました。具体的には、『武士道』の文章が、道徳心理学で用いられる複数の道徳次元とどのように対応するかを調べ、キリスト教関連文献、聖書関連文献、日本文化関連文献と比較して検討しました。

その結果、『武士道』には、権威と階層への敬意、他者の擁護、平等の遵守、内集団への忠誠、応分の衡平、純潔・神聖といった道徳的特徴が、多面的に表れていることが明らかになりました。このことは、『武士道』に表現された道徳的価値観が、単一の徳目や価値だ

けに還元されるものではなく、複数の道徳的特徴からなる構造として捉えられることを示しています（図1）。

さらに研究グループは、日本文化関連の古典テキストを対象として、英語版の刊行数、欧米語への翻訳数、Google Scholar 上の引用数などをもとにした「西洋受容指標」を作成しました。そのうえで、各文献の道徳的構造が『武士道』とどの程度似ているかを分析し、西洋での受容との関係を検討しました。その結果、『武士道』に近い道徳的構造をもつ文献ほど、西洋でより広く受容されている傾向が示されました（図1）。

これらの結果は、日本文化に根ざした価値観が海外で受け入れられる際に、その内容だけでなく、どのような道徳的特徴の組み合わせとして表現されているかが重要である可能性を示しています。すなわち、『武士道』は日本文化に固有の価値観を含みながらも、西洋の読者に理解されやすい道徳的構造を備えていた可能性があります。

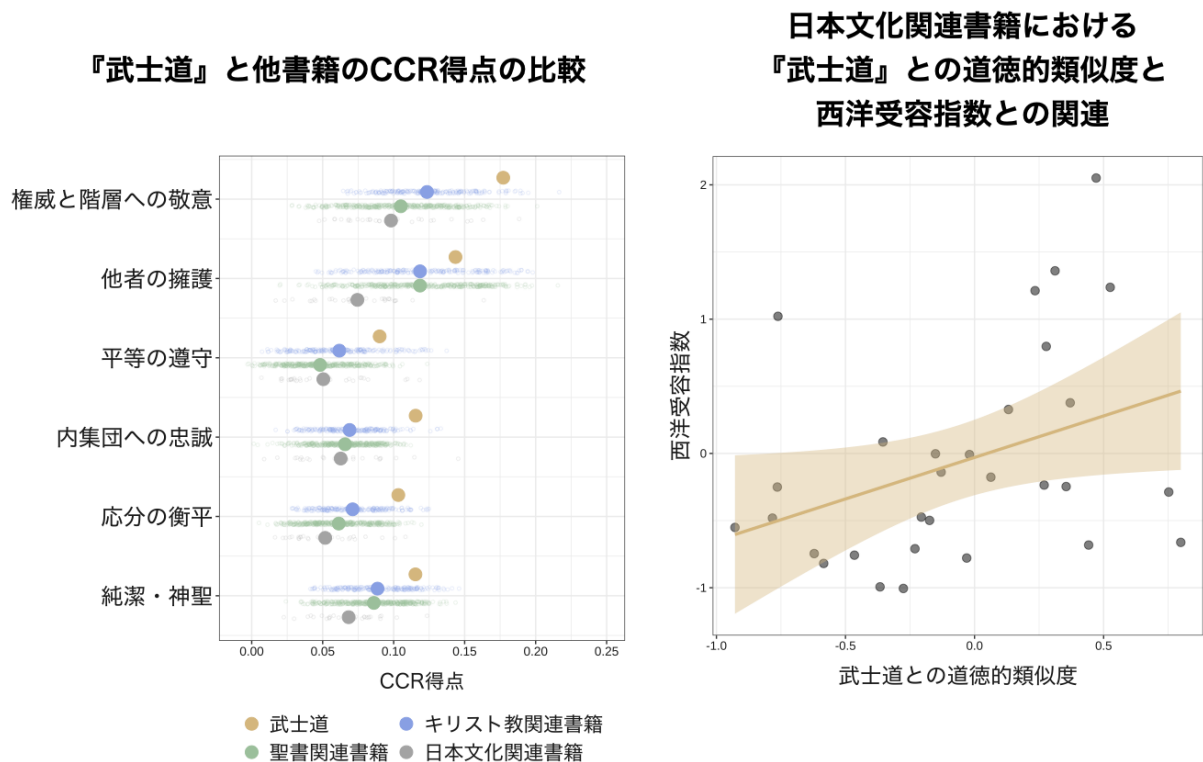


図1:『武士道』にみられる道徳的構造と西洋における受容

また、『武士道』の7つの徳目に対応する章を分析したところ、「名誉」が複数の道徳次元と関わる、特徴的かつ中心的な位置を占めることが示されました。このことは、「名誉」が『武士道』における単なる一つの徳目にとどまらず、その道徳的構造を特徴づける重要な概念であることを示しています。

本研究により、『武士道』に表現された道徳的価値観を、心理学と自然言語処理によって定量的に可視化することができました。これにより、日本文化に根ざした価値観がどのような特徴をもち、どのように西洋で理解され、受容されてきたのかを検討するための新たな手がかりが得られました。

2. 今後の展開

本研究は、これまで主に思想史や文化論の観点から論じられてきた『武士道』を、道徳心理学と自然言語処理を用いて定量的に分析した点に特徴があります。古典テキストに表現された道徳的価値観を可視化することで、日本文化に根ざした価値観が、どのような形で西洋の読者に伝わり、受け入れられてきたのかを検討する新たな手がかりを示しました。

今後は、本研究で用いた手法を、日本文化に限らず、さまざまな文化圏の古典、宗教文献、思想書、文学作品などに応用することで、文化に根ざした価値観が国や地域を越えて伝わり、受容される過程をより広く検討できると期待されます。また、多様な価値観が交差する現代社会において、異なる文化の価値観がどのように理解され、共有されるのかを考えるための基礎的知見としても貢献することが期待されます。

3. 支援・謝辞

本研究は、JSPS 科学研究費助成事業（JP23K22344, JP24K16786, JP25K00865）の支援のもとで行われたものです。

【用語説明】

注 1)WEIRD:

西洋（Western）の教育を受けた（Educated）、産業化されている（Industrialized）、豊かな（Rich）、民主主義国（Democracy）の略。特に、こうした社会や文化で暮らす人々を指す。

注 2)CCR:

Contextualized Construct Representations の略。言語モデルを用いて、特定の心理尺度項目と解析したいテキストの間の類似度（CCR 得点）を計算し、そのテキストの心理学的特徴を定量化する方法。

【論文情報】

雑誌名 :PNAS Nexus

論文タイトル:The seven virtues of *Samurai*: Revisiting a classic through computational language analysis

著者 :Ryota Takano¹ and Minoru Karasawa²

1. Graduate School of Informatics, Nagoya University

2. Education and Research Center for Future Value Creation,
Nagoya University

DOI:10.1093/pnasnexus/pgag314



東海国立大学機構は、岐阜大学と名古屋大学を運営する国立大学法人です。
国際的な競争力向上と地域創生への貢献を両輪とした発展を目指します。

東海国立大学機構 HP <https://www.thers.ac.jp/>

